平塚市都市マスタープラン（第３次）策定専門部会（第１回）

会議録

１　日　　時　令和８年８月２７日（木）　午前９時３０分～午前１１時００分

２　場　　所　平塚市役所本館　４１０会議室

３　出 席 委 員　１１名
石崎　哲男、杉本　洋文、梶田　佳孝、入江　彰昭、阿部　貴弘、
山本　俊哉、縄嶋　智徳、足立　健太郎、續橋　基生、
陶山　正明、重田　昌巳

４　欠 席 委 員　１名

５　平塚市出席者　まちづくり政策課長　　平田　勲
都市計画担当
課長代理　　川崎　智央
主　管　　原囿　昌玄
主　査　　川口　徹
主　任　　須古　悠介

６　傍　聴　者　１名

７　内　　容

（１）部会長の選出について

（２）都市の現況及び現行計画の検証について

（３）改定の方向性と骨子案について

【部会開会】午前９時３０分

（１）部会長の選出について

部会長の選出について、部会の委員の互選により、梶田委員を部会長とすることに決定した。

また、職務代理者について、梶田部会長の指名により杉本委員を職務代理者とすることに決定した。

（２）都市の現況及び現行計画の検証について

都市の現況課題及び新たな潮流・視点、現行計画の成果と継続的な取り組みについて、事務局より資料１に基づき説明を行い、意見聴取を行った。なお、部会で出た意見は、以下のとおりである。

【部会での意見】

（委　員）

平塚市の人口動態について、令和５年で突出して社会増している原因は何か。

（事務局）

コロナ禍を経て、リモートワークによる東京都心への通勤頻度が減ったことで、都内から自然環境に恵まれたエリアの移住や平塚駅周辺を中心に大規模な集合住宅の建設が行われ、居住者の受け皿となり一時的な人口増がみられたことが推定されます。

（委　員）

計画が着実に進んでいることは分かったが、平塚市都市マスタープラン（第３次）の着眼点として、平塚の魅力をどのように作っていくかが重要になると思うが、平塚は外部に対して平塚の魅力を発信する力が弱いと感じている。

マスタープランの全体を見ても、平塚の魅力が伝わってくる内容があまりない。内陸側の都市や隣接し海に面している都市との違いを出すためのアピールをしていく必要があるため、湘南平塚としての将来像を示してほしい。

平塚市都市マスタープラン（第３次）では、移住してくる人たちの価値観の中には、ライフスタイルや趣味を活かし、暮らしを豊かにするという考え方があることから幸福感が重要となると考える。

ハードの整備をしていく時代からソフトの充実への転換が求められており、湘南平塚というイメージを構築していくような形の内容としてほしい。

（事務局）
　住民アンケートでは市内在住の方は住み続けたいというご意向を頂いていることは成果の一つと考えています。その部分を引き続き発信し、アピールしていく内容として、重点まちづくりの方針や将来の暮らしとまちとして、エリアの姿や海や川のまちづくりの方針を今後検討の中で位置付けしていきたいと考えています。

（委　員）
　平塚市の魅力を高めていくには、住宅が増え都市骨格としての基盤整備が整ってきている中、これからは地区別のコミュニティの中で暮らしの質を高めていくことが重要であると考える。
　戸建てが増えており、空家も増えていると説明があったが、どの場所が増えているのか。

（事務局）
　市全域の傾向として、従前の大きな土地が宅地分譲により分割され住宅が増えているものと考えられます。

（委　員）
　住宅が増えている地区でいえば、天沼地区や大神地区、北金目・真田地区が土地区画整理事業により住宅が増加していると思う。
　住宅が増えているが、それぞれの地区が駅まで遠く市全体での連携がないため孤立しているイメージがある。

（委　員）
　防災の観点でいえば、平塚は令和元年台風１９号で大きな被害を受けており、平塚市内は低地であるが浸水被害に対し何か具体的に対策を行っていることはあるか。

（事務局）
　具体的な施策については所管課にて取組んでいますが、基本的な防災対策は地域防災計画で示されており、土地利用やまちづくりの観点からの防災の方針を都市マスタープランに記載しております。

（委　員）
　平塚市立地適正化計画における災害配慮重点区域について、中には居住誘導区域と重なっている場所もあるがこの場所はどうしていくのかが重要と考える。

また、要配慮者利用施設の防災対策は非常に重要な視点と考えている。
総合計画でも防災・減災対策の強化が挙げられている中、平塚市都市マスタープラン（第３次）において、防災・減災について、どのように位置付けていくことを考えているか。

（事務局）
平塚市立地適正化計画は令和７年に策定し運用を始めたので、防災指針に位置付けた考え方をベースとして、平塚市都市マスタープラン（第３次）に反映していくものと考えています。
また、防災の面において災害の種別やそれに伴う影響や対策などについては平塚市立地適正化計画にて整理されておりますが、事前復興まちづくりという視点が平塚市都市マスタープラン（第２次）ではなかったため、平塚市都市マスタープラン（第３次）では新たな要素として位置付けを検討していきたいと考えています。
総合計画の所管課とも調整し位置付けを検討してまいります。

（３）改定の方向性と骨子案について

改定の方向性と骨子案について、事務局より資料２に基づき説明を行い、意見聴取を行った。なお、部会で出た意見は、以下のとおりである。

（委　員）
福祉の視点での話となるが、基盤整備は整ってきている中、次の視点として、高齢者や障がい者など配慮が必要な方がいかに道路や公共施設など、誰しもが使いやすいハード整備を推進するといった、質を高めるやさしい都市づくりを意識していただきたい。

（事務局）
今あるものをこれからいかに使いやすいものにしていくかといった視点は非常に大事な視点であると考えますので、高齢者や障がい者など誰もが使いやすいという視点を踏まえ検討を進めてまいります。

（委　員）
ひらつかシーテラスも整備されたため、平塚市都市マスタープラン（第３次）では、更なる魅力アップのために海岸エリアをしっかり位置付けていけばより平塚の魅力を発信できると考える。

（事務局）
　平塚市都市マスタープラン（第２次）では、ひらつかの顔づくりとして、海岸エリアのひらつかなぎさステージを位置づけ、地域別の方針においても南部地域として方針を示してきました。
　平塚市都市マスタープラン（第３次）においても、海岸エリアはひらつかシーテラスやビーチパーク、新港など海エリアの連携について何らかの位置づけをし、平塚市の魅力の発信に繋げていきたいと考えています。

（委　員）
　骨子案のイメージの中で、「将来の暮らしとまち」は非常に重要と考える。コンパクト・プラス・ネットワークや、ＤＸ、ＧＸということを良く耳にするが、実際のライフスタイルにどのように影響を及ぼすのかが見えてこないことが現在のまちづくりの課題の一つであると考える。
　市民の暮らしの姿として、平塚でのライフスタイルが例えば、世代別に見えてくると、実際にコンパクト・プラス・ネットワークがどのように大事なものなのかが分かると思うため、「将来の暮らしとまち」を最初に描いていくのは非常に良いことだと考える。
　また、共創のまちづくりは、暮らしや生活の質に関わってくるため、共創の仕組みや分野連携型の地域サポートの仕組みを他の条例などとうまく連動させるような形で検討するとより実行性が向上し実現の可能性が高まるものと考える。

（事務局）
　市民の暮らしの姿の検討を進めるため、市民の意向について、市内７地域での意見交換会を開催させて頂いており、今後も様々なイベントに出向き多様な世代の方から声をお伺いしながら進めてまいります。
　また、共創のまちづくりについて、平塚市都市マスタープラン（第２次）でも協働のまちづくりとして記載していましたが、まちづくりは市民、事業者、学術機関、行政、地域団体など様々な主体が連携して行う必要があり、その中でも市民の方の役割を示しながら、条例などの策定主体である行政との役割を整理し、方針を示していきたいと考えています。

（委　員）
　まず、成り立ちを記載する際には、湘南ひらつかの魅力発信の内容は入れていただきたい。
　次に、平塚市都市マスタープラン（第３次）では市民の声を記載するとあるが、現状平塚市は市民の声をまちづくりに活かしていく仕組みを持っていないため、共創のまちづくりを具体化できるような仕組みを記載する必要がある。

また、平塚市立地適正化計画では地域拠点を整備していくと記載があるが、現状戦略がないため、どのように住民と協力してまちづくりを行っていくかが重要であると考える。

福祉の視点では、エイジフレンドリーシティの取り組みが平塚では進んでいないと思われる。福祉の観点では重要な考え方であり、近隣都市では積極的に進めているところもある。

今後の考え方としては、高齢者などがまちを歩くことによって健康寿命を延ばしていくまちづくりをしなくてはならない。

これからの２０年はハード面の整備を進めていくことは、人口減少社会や財政的な状況から現実には困難になると考えられ、住民や企業などと一緒にまちづくりを行っていく必要があるため、そのための仕組みづくりなどの実現性に向けた具体的な方針を平塚市都市マスタープラン（第３次）にはしっかりと示してほしい。

（事務局）

頂いたご意見を踏まえ、共創のまちづくりを具体化できるような仕組みについて示していく内容を検討してまいります。

（委　員）

南部地域の課題として、大浜地区の再整備に向けた取り組み、ハザードマップ作成や津波避難に対しての取り組みとしての話があるが、具体的にハード整備をどのように考えているのか、また、駅南口を利用する方々の意見として、バスやタクシー、自家用車の乗降場と歩行者の動線が重なって危険であり、南口の再開発に向けどのように考えていくのか、更には、空家の利活用など地域での意見についてのフィードバックや取り入れ方について、どのように考えているのか。

（事務局）

先日地域別の意見交換会を開催させて頂き、皆様からご意見を伺っており、今後も住民の方からご意見を伺う機会を設けておりますので、取り組みの進捗に応じてご意見を頂きたいと考えております。

（委　員）

都市マスタープランは平塚市の将来を考えていくものであるため、市民の声を聞いていくのであれば計画策定の段階で、人材育成・教育の観点より若い年代の中でも特に地元の中学生の声を取り入れてはいかがでしょうか。

平塚市都市マスタープラン（第２次）にも「ひらつかの未来ここにあり」と記載があり、未来のビジョンを描く際に、住んでいる方々が将来に渡って住み続けたいと思えることが重要であると考える。

中学生は現在、地域学習を行っている所もあり、様々考えがあると思われるので平塚の将来ビジョンに反映させていくようなことができるのではないか。

また、市民意向調査を見ても、環境と農業に対する満足度が低いとの結果が出ているため、交流・連携といった消費者と生産者を繋いでいくような活動を行っていけるような仕組みを都市マスタープランに盛り込んでいったらいいのではないか。

次に、平塚は戦前・戦後から軍事工場ができたことにより、大規模な工場が多数あるが、神奈川県で工場緑化が全国で最初にスタートしたこともあり、工場緑化も盛んにおこなわれている。毎年、環境活動・緑化活動を行っていたり、地域の子供たちの絵画コンクールを行っていたりと積極的な活動がなされていると思うが、このような活動がうまく可視化されていないと感じる。平塚市都市マスタープラン（第３次）ではこのような市民と企業が共に活動している取り組みについても描いていくといいかと思う。

（事務局）

今後市民の意見を聞く中で、若い年代の意見を取り入れられるよう検討します。

（委　員）

多様な主体の参加によるプロセスの検討と示しており、市民・市民団体・企業・行政等とあるが大学が示されていない。
学生の意見は重要であり、地元の大学のみならず市外の大学でも平塚を題材とした研究を行っていたりするので、将来のまちづくりに向けた有益な意見が得られることが考えられる。そのため、行政は地域特性などの情報を提供するなど、相互に連携した取り組みをしてみてはどうか。

（事務局）

頂いたご意見を踏まえ、大学との連携について検討をしてまいります。
なお、大学との連携といたしまして、東海大学とは大学交流事業としての連携のほか吉沢（ゆるぎ）地区では東京農業大学とも連携しております。

（部会長）

若い方の意見は将来のまちづくりにおいて必要と思うが、平塚市は高齢者の方が多く、また、移住される方についてもご高齢の方が多くいらっしゃる現状も踏まえ、意見を聞く際には年齢問わず幅広い範囲で聞くことが重要である。

【部会閉会】午前１１時００分